

真志会視察報告書

令和8年4月14日～16日

北海道登別市役所

令和8年4月14日（火）

目的 議会改革における先進地の取り組みを研修し、高島市議会のさらなる発展につなげていくため

対応いただいた方：

登別市議会議長 千田文孝

議会事務局統括主任 登山利博

都市整備部下水道グループ統括主任 山本直人

*千田議長から、歓迎のご挨拶を頂いた後、議会改革についてのお話をいただきました。千田議長自ら、全て説明いただき、質問にもお答えいただきました。

概要及び所感

＜議会改革を進めるにあたってのコンセプト＞

「地方議会は任期が4年。人が変わっても継続的、論理的な議会活動を保証する仕組み作りが必要」

確かに4年ごとに話が振出しに戻り、積み上げてきたものが活かされないことがあったと、お話を聞いて改めて気づかされました。さらに、当たり前のように、できていなかった点は、もったいないと感じました。しかし、新旧、また老若男女と様々な議員が一つの目的をもって前に進めることの難しさも、これまでを振り返って感じました。多種多様な議員と改革を前に進めることについて、千田議長と直接意見交換し、議員それぞれが幅広く活動できることについて、参考になるご意見も聞かせていただきました。今後に生かしていきたいと思えます。



<議会改革の始まりはIT化推進から>

IT化に取り組まれたのは平成12年からで、現在は完全ペーパーレスで議会運営されているとのこと。軽度な誤字脱字などは、すぐに修正でき、説明時も、即座に説明箇所が確認できることから、とても効率的かつ、合理的であるとのことでした。ペーパーレス化についていけない議員もおられたのではないかと確認すると、議長から、最初はパソコンと紙ベースと、両方の対応でスタートし、ついていけない議員には、他の議員や事務局が、丁寧にレクチャーしながら進めたとのこと。

今、ようやく高島市議会も前に進もうと動き出していますが、政策の考え方や方向性について効率化を図るのではなく、運営上で効率性、合理性を上げていくことは、事務局はじめ職員の働き方改革にもつながることから、今後もあらゆる面で、議論を進め、改革していくことが必要であると感じました。

<議会サポーター制度について>

市民サポーター（15名以内）に、無償で、各委員会に常設し、年に1回以上の意見交換会を開催しているとのこと。市民サポーターは、市民協同を目指すための仕組みで、委員会ごとにテーマを設けて、様々な角度から、意見交換するとのことでした。

非常に興味深い取り組みだと感じました。しかし、サポーターの人选や、サポーターの意見に議員が偏ったりするのではないかという懸念も感じました。幅広く人选し、意見に対し、固執するのではなく、多種多様な意見として、参考にしていくという利用の仕方を考えなければと感じました。

また専門的サポーター（5名以内）について、有償、非常設で、議案審査や調査に必要な場合に開催するとのこと。議案に限らず、年間活動計画や時事課題に応じた柔軟な活用をされているとのことでした。

専門的な知見からご意見や現状などを聞くことは、有意義なことであると感じました。ただ、有償であるということと、専門家ということから、時間的制約もあることから、何でもかんでも活用できるものでもないと感じました。しかし必要性については、大いに感じました。

<モニターを用いた資料提示について>

議場でのモニター利用により、資料配布の手間を省け、説明する際もピンポ



イントで資料説明ができるとのことでした。ただ、パソコン操作は議員自らで

行い、内容は、自己の調査に基づくものとし、著作権法に抵触しないものとするとのことでした。

今後、高島市議会でもDX化を進めていくこととなりますが、時間のロスや、資料作成の時間短縮など、大いに参考になるお話でした。議場の

改修の際には、モニターの必要性について提言していきたいと考えます。

<議会事務局職員提案制度について>

多様性のある議会は、議員だけでつくるものではない、との考えから、事務局職員が、これまでの議員・議会の補助者から、「ステークホルダー」への意識変化を進めているとのこと。職員は、議員との協同による議会運営を行う責務を負い、提案制度の積極的な活用にも努めると規定されていました。

提案例：二次元コードを活用した傍聴者への資料配布など

議会運営を円滑に、かつ有意義なものにしていくためには、事務局職員からの提案という考え方は、今までにない面白い制度であると感じました。ただし、政策的な提案は、政策に偏りが出たり、議会運営の妨げになったりするのではと懸念するので、今後、事務局職員提案制度を採用するならば、そういった懸念を十分に考慮したうえで、活用すべきと感じました。

北海道当別町役場

令和8年4月15日（水）

目的 ロイズタウン駅周辺の開発の経緯について調査を行い、高島市の駅前周辺の活性化につなげていくため

対応いただいた方：

当別町議会議長 高谷 茂

企画部事業推進課課長 遊佐博憲

企画部事業推進課事業推進係係長 寺田航平

概要及び所感

〈あたらしいまちの顔づくりプロジェクト〉

「札幌市に隣接している太美地区や道の駅周辺の、観光客増加に伴う受け入れ態勢の整備や、これに対応する地元企業等の生産強化、それに合わせて、公民連携による新駅の検討、新しいまちの顔となる地域を創出し、人の呼び込みにつなげる」



この考え方をもとに、ロイズと町が連携し、新しい駅設置に向けて動き出しました。ロイズと町が連名で、JRに請願し、実現に結び付けたとのこと。建設費用については、実質的に、ロイズがほぼ負担する形で、勧められました。そのことから、令和4年に新駅が完成し、駅名も（ロイズタウン駅）となっています。そして、新駅完成に合わせて、ロイズカカオ&チョコレートタウンが新たにオープンしました。

駅から、ロイズ工場までは、自動運転バスが運行されており、令和6年に実証実験をされました。

令和6年には、令和2年の2倍以上の観光入込客となりました。ニセコや富良野よりも多くなったとのこと。またインバウンド観光客の伸び率は、2年連続で全国1位となったようです。ふるさと納税では、令和6年度で、約22億円とのことで、その87%がロイズ製品であるとのことでした。

今回、視察研修させていただき、まず感じたことは、企業が本気で動き出せば、どうすれば可能になるのかという考えで、実現に向けて動き出すので、企業と連携し、前に進めることがいかに重要であるかということです。立地的にも、当別町は札幌から1時間弱、高島市も京都市内から1時間程度ということで、人を呼び込む可能性、チャンスは必ずあると感じました。現在進めている、産業用地開発事業は、そういった観点からも、公民連携で、周辺地域のまちづくりにも大きなプラス影響をもたらせると考えます。

当別町には、ロイズ誘致、さらに新しい街スウェーデンヒルズもつくられており、新しいまちのイメージ作りにも力を注いでおられたので、企業誘致にあわせて、まちづくりも並行して考えていく必要があるということをおぼせていただきました。